



みかんぐみだより(2歳児)

なかよし保育園
令和5年6月 NO.2

みかん組の生活にも少しずつ慣れ、新しい名札を付けることでお兄ちゃん、お姉ちゃんになったことを実感し、保育者に名札がついていることをアピールする姿は、何とも言えず可愛いらしいです。また、靴や水筒など“自分のもの”が嬉しく、自分で靴を履いたりお茶を飲んだりしながら、うまくいかない「あ～できない」と泣いたり怒ったりしながら、保育者に手伝ってほしいことを伝える姿も育ってきています。日々の遊びも、泥団子転がしや色水遊び、虫探し、買い物ごっこにままごとなど様々な遊びを保育者や友達と一緒に楽しみ、元気いっぱい過ごしています。

泣いて怒ってアピール中！

朝のおやつ後、「お外に行くよ～」と声を掛けると、「やった～」と言い外に行く準備が始まります。帽子や靴を“自分でやりたい”という思いが出てきたみかん組さん。自分でやってみようとしてやり始めますがうまくいかない時もあります。うまくいかないと泣いて怒って保育者に助けを求めることも上手です。保育者が「泣かなくて大丈夫。先生、お手伝いする？」と聞くと「できない」と言葉で伝え「できないって教えてくれてありがとう。頑張ったね」と声を掛けながらさりげなく手を貸すことでやりたい思いを受け止めてもらい、“できた”という満足感を保育者と一緒に感じることができるようになっています。

これからも子供たちのやりたいという思いを大切にいろんなことに意欲的に挑戦できるようにしていきたいです。



園庭では…

虫探しが大好きな子ども達は、フェンス近くやプランターの下を覗き込みダンゴムシ探しに夢中です。「ダンゴムシいた」「丸くなった」「かわいい」等と子ども達からの声が次々ととんできます。そこで、捕まえたダンゴムシをいつでも見ることができるよう飼育ケースに入れると、ダンゴムシの絵本を見たことを思い出したのか、「茶色の葉っぱ食べるかな？」と話し、ダンゴムシが好きな茶色の葉っぱを入れ大切にしようとする気持ちも見られています。



また赤土山では、年上の友達の姿を見て、見よう見まねで始まった泥団子づくり。泥だんごをつくらうと土を握るのですが丸くまとまらず、保育者に「あ～」とうまいかないことを手の平にある土を見せて伝えてきます。そこで、保育者は「お姉ちゃん達、お水もってるね」と声を掛け、土に水を混ぜ泥団子が作りやすい土に変えると、手の平でころころとまとまっていくなで見て「できた」と喜んでいました。その横で、泥団子を転がし楽しむ子ども達もいて、保育者が一つ一つの遊びにじっくり関わり一緒に遊ぶことで、それぞれの遊びを続けて遊んでいます。これから夏に向け、泥や水にダイナミックに触れて遊ぶ機会も増えてくると思うので、この時期ならではの遊びを子ども達とゆっくり楽しんでいきたいと思ひます。



白い、お花が咲いたよ

部屋の前にプランターを置きピーマンとパプリカを育てています。毎日、水やりに誘うと喜んで水やりをする子ども達。保育者が「ここに、お花が咲いてるよ」と言うとピーマンの苗に顔を近づけ「あった！」と見つけ、手を伸ばして触って確かめ、子ども達は見て触って野菜の生長を見守っています。これからも、収穫の日まで子ども達と一緒に世話をし大切に育てていきたいと思ひます。

♪トマトはトントントン キャベツはキャツキャツキャツ
きゅうりはキュツキュツキュツ だいこんはコンコンコン
ピーマンはピツピツピツ かぼちゃはチャツチャツチャツ
にんじんはニンニンニン 白菜はくさいくさいくさい♪
の手遊びを喜んでいます。特に白菜はくさいくさいくさいのところ
で鼻をつまみ手でくさいと表現するところが気に入りのよう
です。

